

心理学科

こころについてのエッセイ⑧



ネコ・ねこ・猫（その2：汗）…



あれ、心理学のエッセイのはずなのにまたネコ？ と気づいて下さる方は本学科エッセイの熱心な読者！！ ありがとうございます。

ネコがヒトを対象とした心理学の研究に関係するワケは前回のエッセイで記しました（Web読者の方は前回のエッセイ②は[こちら](#)です）。はい、ネコもヒトも同じ生物なのですから！！



さて、今回は2枚の写真をご覧ください。1つはヒト（当方）の手のひらと「何か」。もう1つは「何か」の拡大写真。両方とも無理無理撮影しています！ 「何か」が見てパッと見てわかる方は自宅にいらっしゃるのでしょうか、ネコが… これはネコの肉球です。ヒトの手のひら相当でしょうか。ふわふわしていて気持ちよいですね。この肉球は時々湿っています。それは汗で…

さてさて、ヒトも汗かきますね、特に暑いとき。余分な熱を水分と共に体外へ出している汗を温熱性発汗と呼びます。ヒトは身体に数多ある汗腺から汗を出します。そう、手のひらにも足の裏にも汗腺があります。だから？手のひら汗を気にする方いますよね。

手のひらの汗（実は足の裏も）の発汗には進化的な意味合いがあり、その例示としてネコの肉球が使われることが多いのです。



暑くない時、たとえばエアコンで適温に保たれた部屋で面接試験時、に汗かいた経験ありませんか？このような時の汗は上記の温熱性発汗ではなく、精神性発汗と呼ばれる汗です。ドキドキするような心理的な要因で汗が出るのです！

このドキドキ感、ヒトの面接試験ならたとえ失敗してもそれだけで済みますが野生動物はそうはいかないことが数多。たとえば自分より強く、自分を食べてしまうだろう外敵に追い回された時はドキドキするだけでなく、生き延びるために逃げ回らなくてはなりません。そのような時は足を滑らせただけで命取り。命を守るために、ドキドキすると両足の裏からの汗（精神性発汗）が出て、それが滑り止めになっているのです。我が家はフローリングも多くネコにとっては滑り止め効きにくい環境ですが、それでも2匹が追っかけあっていた後には肉球が湿っています。



二足歩行となり、足には靴を履くようになったヒトの手足から出る汗は滑り止めにはなりません。ドキドキした時に手足以外も含め出る汗は、昔の名残として残っていて精神性発汗と呼ばれているのです。



私たちヒトが冷や汗をかく時には、ネコ同様生死に関わる「かもしれない」場面に対峙している状態かも？ ダッシュして逃げるような対応でなく知恵を使った対応で乗り切り（逃げ切り）を！そして、精神性発汗が出る様な状態後、可能な場合は心身の休息を！

あっ、我が家のネコ飼育で当方が唯一よかったと思うことは、ネコの肉球が（精神性発汗！で）湿っていること確認できたことだけです（爆）。

田中 裕（生理心理学）